

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	光明第七こども園
活動日時	2025.5.16
クラス名（年齢）	和組（4歳児）・道組（5歳児）
年間テーマ	自然

1. 活動テーマ

《テーマ》

「木」のおもしろさ、楽しさを知ろう！

《テーマの設定理由》

「みんなのもり」を自分たちでデザインしよう！という目標を達成させるために、導入段階として「木」のおもしろさ、楽しさを知ってほしい保育者の思いを込めた。「ノコギリで切る」「ヤスリでけする」「つくる」をテーマとして木の香りや質感なども感じられることも期待し設定した。

2. 活動スケジュール

主活動として4歳児、5歳児を2つのグループに分けて行う。

3. 探求活動の実践

《活動の内容》（活動のために準備した素材や道具、環境の設定）

好きな木端材を選び、ペンやクレヨン、ボンドを使って自由に組み合わせていく。自分で試行錯誤しながら木工の楽しさを感じ、ノコギリや紙やすりなどの道具の使い方も知っていく。

《活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り》

端材の中から何をしようかとイメージしながら使いたいものを選んでいった。

保育者：「何作るの？」

Aくん：「カッコいいおうちにする！」

Bさん：「なんか、このかたちいいみたい」

保育者：「そうだね！みみはこうしてみよう？」

ボンドをつけたが、思うように組み立てられない様子のCさん。

Cさん：「あ～うまくくっつかない！」とやや苛立っていた。

保育者：「こんなふうにしたいの？」

じゃあ、こっちをこうしてみるの？

Cさん：「うん、いいよ。」と納得。自分の作りたい形に近づき気持ちも落ち着いてきた。

枝をノコギリで切ることに挑戦したり、なめらかにするために紙やすりも使用した。ギコギコと木を切る感触を味わい、また、道具の使い方も知ることができた。



4. 振り返り

《振り返りにより得た保育者の気づき》

木と木を接着するためのボンドの量が適量にできている子が多いことに驚いた。また平面ではなく立体な形をイメージして木をくっつけて好きなものを作れていた。普段の保育で、空き箱製作を取り入れていたのでイメージをしやすかったこともあるように感じた。木の形に合わせて、色を塗り、スイカやキャラクターに見立てている子などいても子どもの想像力の高さと柔軟さを感じた。